

ホクコーオルトラン®水和剤

■種類名：アセフェート水和剤
 ■有効成分：アセフェート----- 50.0%
 ■化管法指定物質：アセフェート [第1種] ----- 50.0%

■登録番号：第13175号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1973.10.30
 ■性状：類白色水和性粉末 63μm以下
 ■有効年限：5年
 ■包装：100g×100袋、500g×20袋
 1kg×10袋(北海道のみ)

【特長】

- 広範囲の害虫に効果のある有機リン系殺虫剤。
- 作物への浸透作用が大きく茎葉から吸収され、安定した効果を発揮する。
- 果樹、野菜、畑作物、茶、花き類、芝と適用作物が広い。

【適用内容】(2024年1月11日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数		
キャベツ	アザミウマ類	1000	100~300 ㍻/10a	収穫30日前まで	1回	散布	2回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は1回以内)		
	ヨトウムシ、ハスモンヨトウ タマナギンウワバ	1000~1500							
	アオムシ、コナガ アブラムシ類	1000~2000 1500~2000							
はくさい	1500								
レタス	アザミウマ類、アブラムシ類 オオタバコガ	1000			3回以内		3回以内		
非結球レタス	ヨトウムシ アザミウマ類、アブラムシ類 オオタバコガ	1000							
カリフラワー	ヨトウムシ	1000			収穫14日前まで		1回	1回	
非結球あぶらな科葉菜類 (ケール、からしな、ルッコラ、四川搾菜(茎葉)、畑わさび、畑わさび(葉)を除く)	アブラムシ類	1500			収穫21日前まで				
しょうが	アワノメイガ	32			3.2 ㍻/10a				2回以内
ごぼう	アブラムシ類	1000			100~300 ㍻/10a		収穫45日前まで	1回	2回以内 (株元散布は1回以内、散布は1回以内)
オクラ	アブラムシ類 フタテンミドリヒメヨコバイ		収穫開始7日前まで	1回					
ばれいしょ	テントウムシダマシ幼虫 ヨトウムシ		300	25㍻/10a		収穫30日前まで	2回以内	3回以内 (植付時の処理は1回以内、植付後は2回以内)	
	アブラムシ類、ジャガイモガ	1000~1500							
未成熟とうもろこし	アブラムシ類、アワノメイガ	1000	100~300 ㍻/10a	収穫7日前まで	3回以内	2回以内			
ソルガム	アブラムシ類 ツマジロクサヨトウ			収穫30日前まで					

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	7フェートを含 む農薬の 総使用回数
てんさい	ヨトウムシ テンサイモグリハナバエ	1000~1500	100~300 ℓ/10a	収穫 45 日前 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗期の灌注は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	トビハムシ類	1000					
	ヨトウムシ	60~100	2.5~3 ℓ/m ²	育苗期	1 回	灌注	
		16	1.6 ℓ/10a	収穫 45 日前 まで	3 回 以内	無人航空 機による 散布	
あずき	アズキノメイガ、アブラムシ類 ヨトウムシ	1000	100~300 ℓ/10a	収穫 14 日前 まで		3 回 以内	散布
だいず	ハスモンヨトウ、アブラムシ類 マメシンクイガ				収穫 60 日前 まで		無人航空 機による 散布
	えだまめ	アブラムシ類	16	1.6 ℓ/10a			
いんげんまめ	ハスモンヨトウ、アブラムシ類	1000	100~300 ℓ/10a	収穫 21 日前 まで	5 回 以内	散布	5 回以内
たまねぎ	アブラムシ類 インゲンマメゾウムシ						
	ネギアザミウマ	1000~1500			5 回 以内	無人航空 機による 散布	
		300	25 ℓ/10a			散布	
	ネギハモグリバエ	1000	100~300 ℓ/10a	収穫 21 日前 まで	5 回 以内	無人航空 機による 散布	
300		25 ℓ/10a		散布			
にんにく	ネギコガ、アブラムシ類 アザミウマ類	1000	100~300 ℓ/10a	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
かき	カキクダアザミウマ チャノキイロアザミウマ カキノヘタムシガ フジコナカイガラムシ	1500	200~700 ℓ/10a	収穫 45 日前 まで			
いちじく	アザミウマ類	2000			1 回	散布	1 回
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	1000~2000	200~400 ℓ/10a	摘採 45 日前 まで			
	さんしょう (果実)	チャノコカクモンハマキ	1000~1500				
だいおう	チャノキイロアザミウマ	1500	200~700 ℓ/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
みしまさいこ	ヨトウムシ	1000	100~300 ℓ/10a	生育期 但し、 収穫 230 日前 まで			
	薬用にんじん			アブラムシ類	1500	収穫 30 日前 まで	5 回 以内
やまのいも	アブラムシ類 ヤマノイモコガ	1000	100~300 ℓ/10a	収穫 180 日前 まで	1 回	散布	1 回
葉しょうが	アワノメイガ			1000			
				収穫 21 日前 まで	2 回 以内		2 回以内

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	アフェートを含 む農薬の 総使用回数
たばこ	ヨトウムシ、タバコアオムシ アブラムシ類	1500～2500	25～180 ℓ/10a	収穫 10 日前 まで	2 回 以内		2 回以内
	ヤサイゾウムシ	1000～2000	1 ℓ/m ²	苗床期			
	ジャガイモガ若齢幼虫 ジャガイモガ中齢幼虫	1500～2000	25～180 ℓ/10a	収穫 10 日前 まで			
つつじ類	ツツジゲンバイ	1500	200～700 ℓ/10a	発生初期	5 回 以内	散布	5 回以内
つばき類	チャドクガ						
さくら	モンクロシャチホコ	1000～1500					
	アメリカシロヒトリ	1500～2000					
花き類・ 観葉植物	アザミウマ類、アブラムシ類	1000～1500	100～300 ℓ/10a				
	アオムシ、ヨトウムシ類	1000					
きく	マメハモグリバエ オオタバコガ						
ストック	コナガ、ハイマダラノメイガ						
宿根アスター	ヨメナスジハモグリバエ						
オンシジウム	カイガラムシ類						
カーネーション	コナガ						
ひまわり	タバコガ						
斑入りアマドコロ リアトリス	ハマキムシ類						
樹木類	アザミウマ類			200～700 ℓ/10a			
グラジオラス				—	植付時	1 回	10 分間 球根浸漬
芝	シバツトガ、タマナヤガ			0.25～2 ℓ/m ²	発生初期	5 回 以内	散布
	スジキリヨトウ、ケラ		1～2 ℓ/m ²				
	シバオサゾウムシ成虫	2 ℓ/m ²					
	アカフツツリガ	0.5～1 ℓ/m ²					
もりあざみ	アブラムシ類	1500	100～300 ℓ/10a	収穫 45 日前 まで	1 回		1 回
まめ科牧草	アブラムシ類	1000			3 回 以内		3 回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合は、次の事項に注意すること。
 - ◆ 内袋はぬれた手で触れないこと。
 - ◆ 外袋の開封後は使いきることが望ましい。
 - ◆ 薬液の調製は所定量の水の3分の1程度を入れた後、内袋を開封せずにそのまま容器内に投入すること。容器内に水を所定量まで加えた後、よく攪拌すること。
- 調製した薬液はできるだけ早くその日のうちに使用すること。
- てんさいの育苗期の灌注は薬液が茎葉に残っていると薬害を生じることがあるので、軽く散水(0.5 ℓ/m²)して除去すること。
- てんさい・ばれいしょ・たまねぎに対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用すること。
- みずかけな(水掛菜)、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用后 14 日間は入水しないこと。
- さくらに使用する場合、夏期高温時には薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- カーネーションの品種によっては薬害を生じるおそれがあるので、初めて使用する場合は使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。

- ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - ◆ 散布は各散布機種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中薬液の漏れのないように、機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 散布薬液の飛散によって他の動植物及び諸物件に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲・誤食などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤の解毒剤としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性：浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。
水溶性フィルムで包装した製剤は吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を強く閉じて保管し、できるだけ速やかに使うこと。